

序 章

はじめに



1

ビジョン策定のねらい

農林業・農山村は県民生活に欠かせない食料や木材などの供給のみならず、食品産業や観光業などと結びつき、地域の経済や県民生活に活力をもたらすなど重要な役割を担っています。また、県土の保全や水源涵養^{かん}などを通じて県民生活の安心を築くとともに、美しい風景や伝統文化の維持・形成などのいわゆる多面的機能を通じて県民の豊かな暮らしに寄与しています。

しかし、基幹的農業従事者の減少や高齢化による農業構造の変化に加え、人口減少や高齢化による食料消費量の変化、多様化する消費者のニーズ、食に対する安全・安心への関心の高まり、情報通信技術（ICT）やロボットなどの技術革新、世界の木材需給の変化、環太平洋パートナーシップ（TPP）協定や経済連携協定（EPA）等のグローバル経済の進展など、本県の農林業・農山村を取り巻く環境はめまぐるしく変化し、様々な課題に直面しています。

こうした変化し続ける環境に的確に対応しつつ抱える課題を解決していくためには、農林業の稼ぐ力・農林業に関わる人財力・農山村の地域力を高める所要の取組を着実に展開し、本県農林業の成長産業化と多面的機能の発揮による豊かで安らぎある県民生活の実現を図っていく必要があります。

また、埼玉の農林業・農山村の役割は広く県民生活に関わるものであり、その最大限の発揮のためには、農林業関係者や関係機関・団体のみならず、多くの県民が農林業・農山村に対する思いを共有し、それぞれの役割を十分発揮しながら、生産から消費までに関する様々な取組を強化していく必要があります。

このような考えのもと、本ビジョンは本県農林業・農山村の将来像を描き、これを実現する施策を総合的に推進するために策定するものです。

2

目標年度

目標年度は平成28年度から5年後の平成32年度とします。

策定のねらい

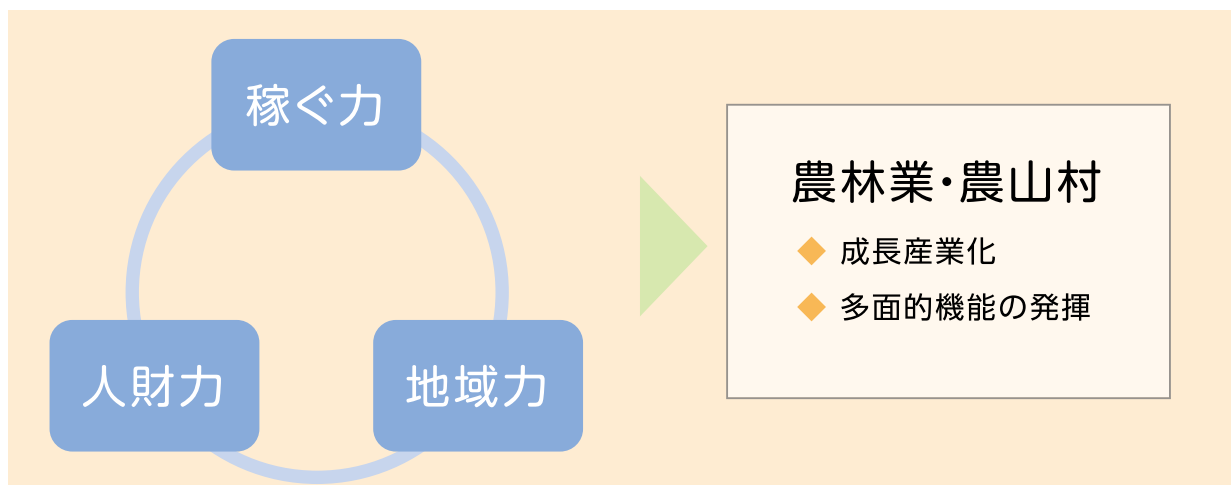
■ 農林業・農山村は県民の豊かな暮らしに寄与

- ・ 食料や木材などの供給
- ・ 美しい風景や伝統文化の維持・形成
- ・ 県土の保全・水源涵養^{かん}
- etc

■ 農林業・農山村を取り巻く環境が変化

- ・ 農業従事者の減少や高齢化
- ・ 食料消費量の変化と多様化する消費者ニーズ
- ・ 食に対する安全・安心への関心の高まり
- ・ 情報通信やロボットなどの技術革新
- ・ 世界の木材需要の変化
- ・ TPP等のグローバル経済の進展
- etc

■ 環境変化に対応するため3つの力を高める取組を展開



豊かで安らぎある県民生活の実現

3

ビジョンの構成

第Ⅰ章 埼玉農林業・農山村の姿

本県の農林業・農山村に関する6分野について、現状と課題を整理しています。

第Ⅱ章 農林業・農山村を巡る潮流

農林業・農山村を巡る潮流をとらえ、課題を整理しています。

第Ⅲ章 本ビジョンが目指す将来像

本ビジョンが目指す将来像について、食料・農業、森林・林業、農山村の3分野について示しています。

- 〔食料・農業〕 担い手による付加価値の高い食の安定供給と成長産業化が進む農業
- 〔森林・林業〕 様々な働きを通じて県民生活・経済を支える森林・林業
- 〔農山村〕 地域資源を活用した多様な取組が展開されている農山村

第Ⅳ章 取組の展開方向

ビジョンで示した将来像の実現に向けた施策を10の大柱で整理しています。大柱はさらに小柱と目指す方向により構成されています。指標については大柱ごとに設定しています。

〔食料・農業〕

- 1 成長する埼玉農業を支える担い手を育成する
- 2 優良農地の確保と農地の有効活用を進める
- 3 多彩な農産物の生産力を強化する
- 4 埼玉農産物の需要拡大を推進する
- 5 食の安全・安心を確保する

〔森林・林業〕

- 6 森林の循環利用を推進する
- 7 県産木材の利用を促進する
- 8 森林を整備・保全する

〔農山村〕

- 9 活力ある農山村を創る
- 10 県民の農林業・農山村を大切にすることを醸成する

第Ⅴ章 ビジョンの推進に当たって

ビジョンの推進に当たって、県、市町村、農林業団体、農林業者、県民それぞれの役割を示しています。